

市の鳥



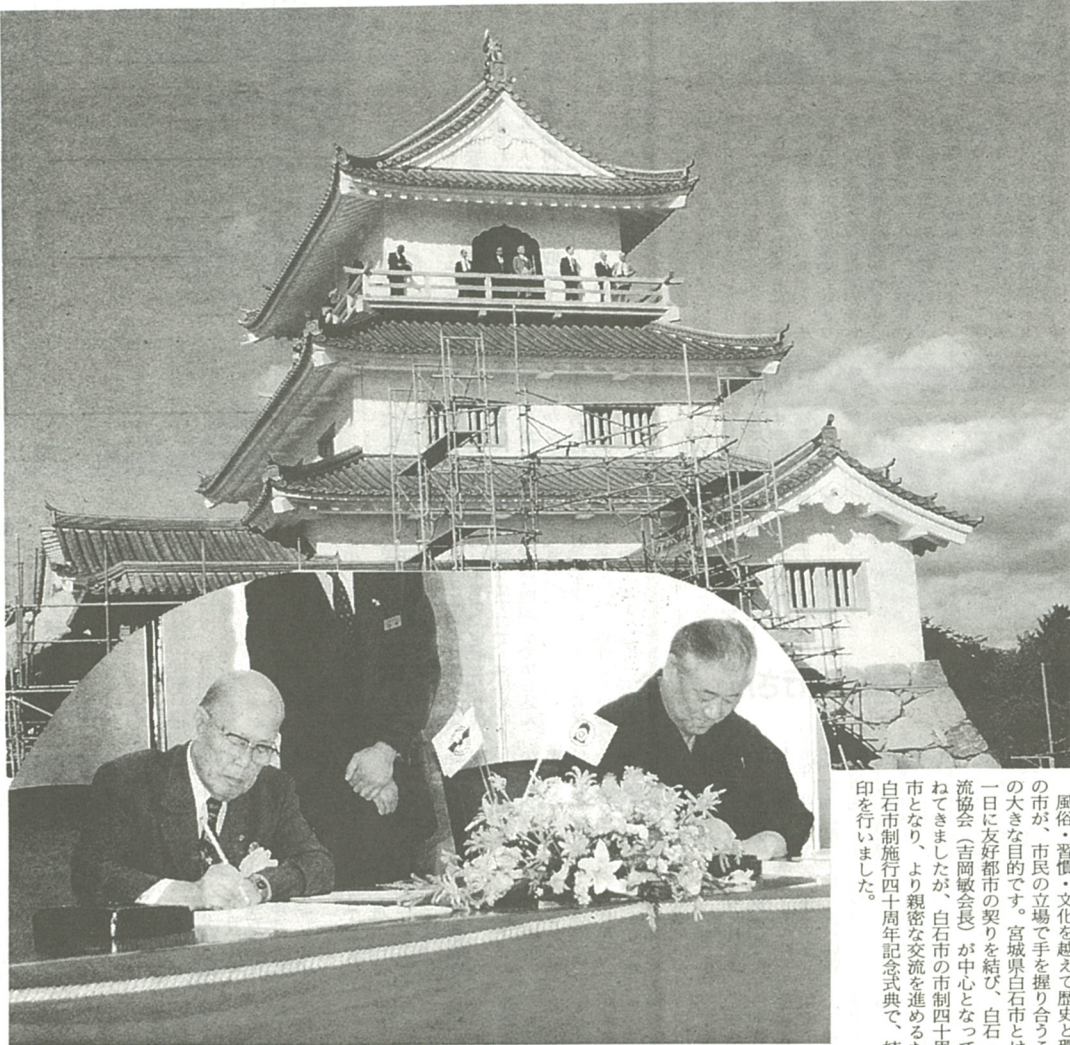
カワラヒワ

広報 **えびな**

編集・発行
海老名市役所秘書広報課
〒243-04
神奈川県海老名市勝瀬175
☎ (0462) 31・2111

この広報は再生紙を使用しています。

交流で広げる友情の輪



風俗・習慣・文化を越えて歴史と環境の異なった二つの市が、市民の立場で手を握り合うこと、姉妹都市提携の大きな目的です。宮城県白石市とは、平成三年十一月一日に友好都市の契り結び、白石・海老名友好親善交流協会(吉岡敏会長)が中心となって、数々の交流を重ねてきましたが、白石市の市制四十周年を契機に姉妹都市となり、より親密な交流を進めるため十月二十三日、白石市制施行四十周年記念式典で、姉妹都市としての調印を行いました。

宮城県白石市と 姉妹都市提携



市章

盟約書に署名する
左藤海老名市長と
川井白石市長(右)

今後の交流 に期待

これまで、各種の団体で訪問交流などが活発に行われてきていますが、市民を主役とした、特に次代を担う若者の交流の広がりがますます期待されます。これまでの交流の一端を紹介します。

◎少年野球交流試合

両市の少年野球選抜チームが、夏に白石市へ、秋に海老名市へと相互に訪問し、交流試合とホームステイで親善を深めています。

◎少年少女水泳大会

白石市が姉妹・友好都市関係を結ぶ都府県(登別市、札幌市白石区、オーストラリア・ハースティル市、海老名市)の小中学生が白石市のスパッシュランドといういしに集い、親善対抗試合とホームステイで親善を深めています。

◎ふるさと豆記者訪問

海老名市内の小中学校の各代表十三人が白石市の小学校を訪問し、児童交流や市内を見学取材し、ホームステイで親善を深めています。

◎白石物産展の開催

えびなふるさとまつりの会場で毎年、白石物産展を開催しています。

嫁入りした こけし

白石市は、伝統こけしの発祥の地として知られています。頭が大きく、頭頂と胴に幅広い口クロ模様を描き、胴の中程が細くくびれた形をしている弥治郎こけし



嫁入りこけし「みずき」

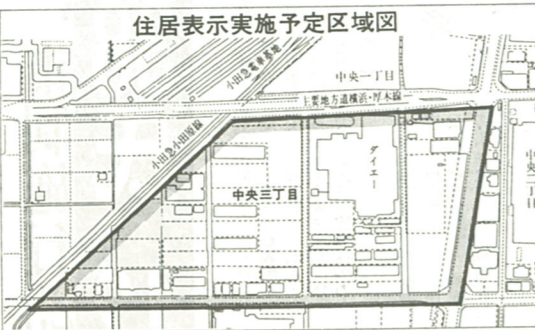
復元される 白石城

白石城の復元(写真上)は、昭和六十三年に「らし日本」を目標とした第三次白石市総合計画の二大核事業のひとつとして計画されたものです。歴史を永代に伝えるため、文化財の保護を重視し、発掘調査を行い、そのうえで史実に忠実に、城郭として機能した最晩年の構造による三階櫓(天守閣)、大手門として建設されています。建物は、日本古来の建築様式に基づき、数百年の歳月に耐え得る、全国にも数少ない木造による復元を採用しています。「白石市のシンボル」として平成七年三月の完成を目指しています。

白石市は、伊達藩白石城の城下町として発展してきた宮城県南部の都市です。昭和二十九年四月一日に市制を施行し、面積約二百八十六平方キロ、人口約四万二千人、仙台空港まで約五十分、東北本線の白石駅、東北新幹線の白石蔵王駅、東北自動車道の白石インターチェンジがあり、宮城県南部の交通の要衝となっているとともに雄大な蔵王連峰の景観と自然に恵まれているなど観光資源の豊富なことから年間約五十万人の観光客が訪れています。

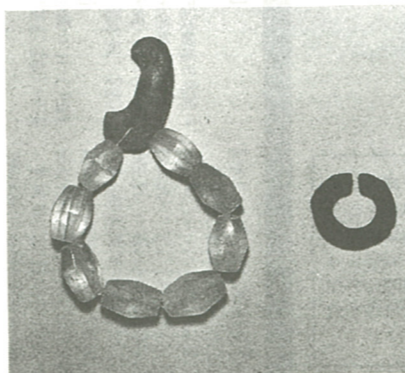
「住居表示」のお知らせ

市では、現在の河原口の一部... 住居表示に関するお問い合わせ先は、都市整備課(内626・628)です。



本市の古墳関係の資料をまとめた「温故館特別展」... 展示期間は11月15日から12月8日まで。

温故館特別展 15日~12月8日



知られざる海老名の古墳 方形周溝墓など資料を展示

市内には、県下で最古の古墳群である秋葉古墳群や瓢箪塚(通称ひょうたんやま)をはじめとして数々の古墳があります。

12月4日~10日は人権週間

特設人権相談 6日・市役所で

十二月四日(日)から十日(土)までの一週間は、こどもも第四十六回人権週間として各種の行事が行われます。

古墳

四世紀代になると、眺望の良い所に造られた古墳が表れます。現在までの調査結果から、古墳は市内北端から造られ始め、大まかに時代が下るにつれて南下していったようです。

考古学講座開講 「海老名の古墳」

十二月十七日(土)午後二時~三時、市役所七〇一会議室。講師 東京国立博物館考古学部長 望月幹夫氏。

新農業委員20氏が就任

農業委員会委員の任期満了に伴い、十月から新しい農業委員が就任しました。委員は、農地利用関係、農業全般について意見を述べたり、農業や農業者団体に対して指導・助言を行うことを主な職務としております。

古墳時代の終焉

古墳時代は終焉する八世紀後半に海老名は、国分二寺(僧寺、尼寺)を造立する地に選ばれます。前期古墳の築造や横穴墓の密集は、相模湾の中心となる基盤を海老名が持っていたことを示しています。

第二東名の公聴会の開催と再見解書

第二東名自動車道事業に係る環境影響予測調査書について、公聴会の開催および再見解書の提出が予定されています。公聴会は十二月十八日(土)午後二時から、市役所七〇一会議室で開催されます。

●海老名ファミリーズ(健康体操)会員募集... ●第22回無料着付講習会... ●生活に花の彩りを...

年末の大掃除はお早めに

Table with columns for date, location, and collection items (燃えるごみ, 燃えないごみ, 資源物). It lists collection dates for various districts from December 1st to 28th.

毎年の大掃除をする家庭が年末に集中し、ふだんのごみの量に比べて大量のごみが出されることが懸念されます。

ごみの減量・資源の再利用の協力を

「ごみ」と資源は指定日の午前八時半までに、決められたごみ集積所に出してください。資源物は指定日の午前八時半までに、決められた資源集積所に出してください。



緑化ポスター入賞者

海老名市緑化推進協議会(会長・諏訪)主催の「第8回海老名市緑化ポスターコンクール」の入賞者が発表されました。

新設の市長賞に4作品

全学年 小久保順子 柏ヶ谷3 1年 坂本清 杉本 2年 小松正史(杉久保)3年 山口直家 5年 萩原秀規 柏ヶ谷6年 辻谷尚彦 杉本

大谷の横山英行さん

横山英行さん(大谷在住)の作品が市長賞に選ばれました。市長賞は、市民の緑化意識の高揚を図るため、市役所一階ホールに「緑の写真館」として展示されます。

情報コーナー

●高齢者趣味の教室「農村生活」の受講者を募集... ●東洋療法講習会... ●入籍発表講演会... ●大規模制度の説明と個別相談会...



▲“おいもの収穫祭”

10月31日、中新田小学校で「おいもの収穫祭」が行われた。これは、今年5月に中新田の畑に植えたものを掘ったもので、5982個のサツマイモが収穫、それを校庭に山積みしてお祝いをした。中には1個3kgもある“ジャンボイモ”もあったとか。子供たちは、1人約2kgのイモを家に持って帰った。

10月23日、障害者団体連合会主催の「たき火を囲む会」が、大谷にあるボーイスカウト団ルーム前の空き地で行われた。この日は、市内の障害者福祉団体、5団体が一同に会して、いっばいのサツマイモやおにぎりなどを食べながら楽しんだ。

▼「たき火を囲む会」に100人



▲サツマイモのほりとり

10月23日、大谷中学校南側の畑で、サツマイモの掘りとりが行われた。当日は好天に恵まれ、たくさんの親子連れでにぎわい、「わあー、大きいな」「こっちにたくさんあるよ」など、子どもたちは大喜びだった。



フォトピックス

◀乳牛共進会に168頭

10月23日、県乳牛共進会が綾瀬市にある、県家畜集合センターで行われた。牛を9つの部門に分けて審査が行われ、優良、優秀、最優秀などの賞が与えられた。海老名からは6頭が参加し、その中の1頭が優良賞に選ばれた(写真左端の牛)。



▲みんなの愛と協力で

10月30日、わかば会館と保健相談センターを会場に「第12回福祉のつどい」が行われた。会場の福祉体験コーナーでは、車いす乗車、手話、点字などを体験する、スタンプラリーも行われた。



第338話

トントコ爺さん

「アトントコ、トントコ、みみずちや歯も無い目も見えない。耳もなければ目も見えない。手足がないから爪も無い。それでもちやあーんと生きて行く。人この世に生まれ出て、まじめに仕事に精を出せば、暮らして行けない筈はない。アトントコ、トントコ」

これは、石油ランプの芯や紙で作ったランプの笠、灯芯、マッチ、付け木など軽い日用品の生活必需品を、商して歩いたお爺さんの歌で、歌の始めと終わりに「トントコ、トントコ」という独特の囃し言葉を入れたので、子供たちはこの行商の老人を、トントコ爺さんと呼んだ。

トントコ爺さんは、毎月必ず月始めと月半ばの二回、行商に来たが、老齢のため目方の張るものは商わず、竹をビラミット型に組んだ小じんまりとした枠にいろいろな品物をつけて両肩にし、細身の天秤で担いできたが、歩巾が狭いので歩くのは遅く、トントコ爺を歌う時はさらに足を小刻みにして、妻踏みでもするようには歩いたが、その足どりは里神楽の翁が踊っているようにも思われた。

ある時、それを真似て「山高きが故に尊からず」とやったら祖父が「それは実語経だが、どこで覚えた」と聞くので「お経ではない、トントコ爺さんの歌う歌だ」と答えると「経というのは、尊い教えという意味で、坊さんが葬式に読むものや決まっているわけではない。古い書物や昔々の偉い人が書いたものには、易経、孝経、書経、詩経など経のつくものが多いが、こうしたものを経書というのだ」と教えてくれた。

トントコ爺さんは、何時も浅黄の股引に草鞋ばきで、じんじんばしりとしていたが、服装はきちんとして汚れたものは身に着けていなかった。

北風の冷い十二月の夕暮れ、大谷宿外れの稲番小屋に宿供えのちが集まっていた。トントコ爺さんが寒そうに戻ってきたので、「お爺さん、温まっていきなよ」と言ったら「寒い時は、火が一番の御馳走だよ」と言った。

御馳走とは、食べるものとばかり思っていたが、焚き火ももてなしが、焚き火ももてなしが、御馳走と知った。

あつた売れ残りのザンザラが寒風に震える音がひびく位だった。「これからじゃあ、だいたい遅くなるんじゃない」と言ったら、「年寄りの足で速くは歩けないが、歩いていれば必ず帰れるよ」と笑っていた。きまきりさったのだが、何故かこの言葉が記憶に残っている。牛歩千里を行く。に通じるもので、あきらめて投げ出しさえしなければ必ず目的が達成するという、トントコ爺さんの哲学だったのかも知れない。



ができてから吉岡は近くなつたが、早川は樽井の坂がきついとこぼすこともあった。足が速いうえに両肩を担いでいるため、帰りは何時も夕暮れで、大抵もとの道を引いて返ってきたが、その時はもうトントコ爺は歌わず、わけの分からぬことを呟っていたが、時々声高にいうので、何節かは子供たちも覚えてしまった。一番よく覚えていたのは「山高きが故にたつとかならず、木あるをもつたつと」となすという文句だった。

あつた売れ残りのザンザラが寒風に震える音がひびく位だった。「これからじゃあ、だいたい遅くなるんじゃない」と言ったら、「年寄りの足で速くは歩けないが、歩いていれば必ず帰れるよ」と笑っていた。きまきりさったのだが、何故かこの言葉が記憶に残っている。牛歩千里を行く。に通じるもので、あきらめて投げ出しさえしなければ必ず目的が達成するという、トントコ爺さんの哲学だったのかも知れない。

海老名むかしむかし

☎33・3838

電話で海老名の昔ばなしが聞けます。

11月8日～11月28日 第162話 門石

11月29日～12月19日 第163話 乳房のイチョウ